

令和4年 第1回 北海道議会定例会 予算特別委員会〔総務部所管〕開催状況

開催年月日 令和4年3月18日（金）

質問者 日本共産党 宮川 潤 委員

答弁者 危機管理監、危機対策局長、危機対策課長、
消防担当課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 雪害対策について</p> <p>2月6日に発生した大雪は歴史的な降雪量と相まって、北海道の大動脈でありますJR札幌沿線全線の停止、札幌市内を中心にバスの運休・遅延など、道民の通学、通勤、通院などの生活の足が奪われる事態となりました。</p> <p>大混乱となった今回の雪害を教訓として、道民の命を守るための対策を考えていくという必要があると思いますので、以下質問をいたします。</p> <p>（一）今回の雪害対応について</p> <p>2月5日から6日にかけて発生した大雪では、雪害対策連絡会議の開催は翌7日になりました。なぜ遅くなったのかまずお答えください。</p> <p>（再質問）</p> <p>事前情報がなかったということですが、そういうこともあるんですよ。</p> <p>そういう時こそ緊急の対応が求められるという風に思いますよ。</p> <p>被害が出ることを予想するということは困難ですか、JRや自治体などと普段から連絡体制はどうなっていますか、今後、必要な場合に直ちに会議を行って対策を立てるべきですが、どう対応するか伺います。</p> <p>（指摘）</p> <p>石狩湾で発生した小さな低気圧が入ってくるということを把握することが難しかったということですが、事前の段階で把握が難しかった場合には、判断を速くすること、判断からの会議を早くすること、是非そのところで、緊急性を増した対応をしていただきたいと思いますのであります。</p>	<p>（危機対策課長）</p> <p>雪害対策連絡部会議についてであります。この会議は、気象台からの早期注意情報等を踏まえ、荒天により災害発生が予想される場合には、その都度、関係機関を招集し、各機関の対策などを確認・共有するため開催しておりますが、2月初旬の大雪は、警報発表に関する事前情報がなく、交通障害の発生などを受けての開催となったところで、JRや各道路管理者の対応状況のほか、札幌市の除排雪の課題等について報告を受け、関係機関が行う対策についての情報共有を図ったところでございます。</p> <p>（危機対策課長）</p> <p>気象情報等についてであります。気象台では、警報級の可能性が事前に予想される場合には、早期注意情報を発表するほか、予想される地域や気象現象に応じ、警報に先立って気象情報を発表し、注意喚起を行っているものと承知しております。</p> <p>2月初旬の大雪は、石狩湾で発生した小さな低気圧が風向きの影響などにより札幌付近に入り込んだものであり、局地的な気象現象を事前に把握することは難しかったものと認識しております。</p> <p>なお、JRや市町村、防災関係機関とは、休日、夜間を問わず連絡可能な体制を構築しており、今後も対応すべき事案が発生した場合には、会議の開催も含め、速やかに情報共有を行い、災害応急対策にあたっております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) 雪害の検証について</p> <p>この度の大雪に対する対応の検証チームを立ち上げたということですが、具体的にどのような検証を行うのか、その結果を対策として今後どう生かしていくか伺います。</p> <p>(三) 広域にわたる雪害への対応について</p> <p>2月の大雪は札幌市を中心に、石狩地域をはじめ道内広域で様々な影響がありました。</p> <p>市町村から道への支援要請はどうありましたか。</p> <p>今後、広域にわたる雪害が起こった時には、道が各自治体と連携を取って、道民生活を守ることが必要ですが、道としてはどうお考えですか。</p>	<p>(危機対策局長)</p> <p>雪害の検証についてでございますが、先月、記録的な大雪によりまして、札幌圏では、大規模な交通障害が発生しまして、全道にも大きな影響が及んだことを、道として、重く受け止めているところでございます。</p> <p>このため、道では、今後、大規模な雪害が発生した場合、地域全体で対応できるよう、国や札幌市、JRなど関係機関と連携して、今回の大雪で明らかとなった影響や課題を幅広く抽出し、一連の対応を検証し、5月中旬を目途に、初動体制や機動的な対応、情報発信のあり方などの、今後の対応策を取りまとめるとともに、北海道防災会議において関係機関に周知徹底したうえで、訓練を実施することとしており、大雪による被害の最小化に向け、関係機関と一丸となって取り組んでまいります。</p> <p>(危機対策課長)</p> <p>市町村との連携についてであります。暴風雪、大雪による災害発生に備え開催している雪害対策連絡部会議には、各振興局も参加しており、会議での情報は、振興局を通じて市町村にも共有し、予防対策の強化に努めているところでございます。</p> <p>また、雪害発生時には、振興局を通じて市町村の被害や支援ニーズ等の把握を行っており、今回、交通障害の影響が大きかった札幌市に対しては、市の雪害対策連絡会議に職員を派遣し、状況把握を行ったところでございます。</p> <p>こうした取組を通じて、道では、札幌市から要請のあった道管理河川敷地などの雪捨場の受入容量の拡大や新たな雪捨場の確保のほか、江別市から要請のあった除雪機械の貸し出しなど、市町村の除排雪作業の支援を行ったところであり、今後とも、道民の皆様の安全・安心な冬の暮らしの確保に向け、市町村との連携を強化し、必要な支援を行ってまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 救急対応への影響について</p> <p>2度の大雪で、救急車が目的地まで行けない、到着が遅れる、路上で立ち往生するという事態が発生したという風に伺っていますけれども、どのように把握されどう対応しましたか。</p> <p>(指摘)</p> <p>緊急の対応をしながらですね、ただいま、傷病者の生命に関わるような状況を防ぐことができたということでは、良かったと思うんです。</p> <p>しかしその、生命に関わる事態にならなかったとはいえ、遅れるということ自体が大変なことでありますから、是非、こういった事態をなくすように取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>(五) 大規模雪害時の優先順位の考え方について</p> <p>大規模な雪害が発生した際、道民生活をはじめとする、経済活動、観光客対応など様々なケースに対応する必要があると想定されますが、救急車の経路確保など、まずは道民の命を第一とした対応をしていくべきと考えます。</p> <p>道としてのお考えを伺います。</p>	<p>(消防担当課長)</p> <p>救急活動への影響についてでございますが、道では、今般の2度の大雪の際、札幌市消防局におきましては、救急車のスタック事案が数件ありましたが、他の救急車を手配するなどして対応し、傷病者の方の生命に関わるような状況を防ぐことができたと承知しております。</p> <p>また、札幌市を除く石狩管内の5つの消防本部におきましては、いずれも救急車のスタック事案はなかったと承知してございます。</p> <p>(危機管理監)</p> <p>大規模雪害時の対応についてであります。北海道防災対策基本条例では、防災対策は災害時において人命を守ることを最も優先させることを基本理念としており、雪害対策連絡部会議においても、庁内関係部局や関係機関に対し、まず第一に、孤立地区や大規模停電、立ち往生車両の発生など人命に関わる事態の発生に備え、救出救助活動やライフラインの復旧作業を行うための体制などを点検・確認し、迅速に対応を行うよう要請しております。</p> <p>先月の大雪では、大規模な交通障害の発生に伴い、道内の社会経済活動に大きな支障が生じたことから、道では、今後、こうした事態が発生した場合の影響を軽減できるよう、国や関係機関と連携して、一連の対応の検証を行い、今後の対応策を取りまとめることとしておりますが、今後とも、人命を最優先としながら、検証結果も反映し、雪害対策の充実強化に取り組んでまいります。</p>